

科目名	栄養学						
担当講師	笹田 陽子 木村 京子						
実務経験の概要	笹田 陽子 : 管理栄養士 病院にて管理栄養士として実務経験を有する。 木村 京子 : 管理栄養士 病院にて管理栄養士として実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義						

授業概要							
<p>栄養学では、食事や食品、栄養素がどのようにヒトで利用されたり影響しているかを学びます。各栄養素のはたらき、栄養評価の方法を理解するとともに、ライフステージの栄養、栄養療法について学び、医療者に求められる栄養の基礎を構築します。</p>							

学修到達目標							
<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康の保持・増進や疾病の予防における栄養の役割を説明できる。 2. 栄養素のはたらきを説明できる。 3. ライフステージと臨床及び生活の場での食事のあり方を説明できる。 4. 主な疾患の栄養療法について説明できる。 							

授 業 計 画							
第1回	栄養学を学ぶ意義ー栄養の現状と課題ー						笹田陽子
第2回	栄養素のはたらき（3大栄養素 ビタミン）						笹田陽子
第3回	栄養素のはたらき（消化と吸収 エネルギー代謝）						笹田陽子
第4回	ライフステージと栄養（乳幼児期の食事）						笹田陽子
第5回	リハビリテーションと栄養 NST						木村京子
第6回	栄養評価 BMI 生化学データ						木村京子
第7回	静脈・経腸栄養						木村京子
第8回	ライフステージと栄養（学童期の食事）						笹田陽子
第9回	ライフステージと栄養（成人期の食事）						笹田陽子
第10回	ライフステージと栄養（高齢期の栄養）						笹田陽子
第11回	栄養と運動						笹田陽子
第12回	栄養療法(サルコペニア・フレイル・褥瘡の栄養管理)						木村京子
第13回	栄養療法(糖尿病の栄養管理)						木村京子
第14回	栄養療法(呼吸器疾患の栄養管理)						木村京子
第15回	栄養療法(嚥下障害・消化器疾患の栄養管理)						木村京子

評価方法							
期末試験で評価しますが、必要に応じてレポートを課すことがあります。レポートも評価の対象となります。							

教科書							
内山 靖他「リハベーシック 生化学・栄養学」第2版 医歯薬出版							

参考図書・文献							
日本人の食事摂取基準2020（第一出版） コンパクト応用栄養学（朝倉書院） メディカルスタッフのための栄養療法ハンドブック(南江堂)							

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)							
---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

事前学修：事前に次回の授業箇所を説明するので教科書を読んでおくこと（30分）

事後学修：授業内容を教科書や配布された資料で復習しておくこと（30分）

科目名	薬理学						
担当講師	ハサン アリフ ウル 小原 真美						
実務経験の概要	ハサン アリフ ウル ：医師 病院にて、医師として実務経験を有する。						
	小原 真美 ：薬剤師 病院にて、薬剤師として実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 オムニバス						

授業概要

投薬治療の必要性と各種薬剤の効果や副作用、リハビリテーション実施時に見られる薬剤の相互作用、薬理学からみたりハビリテーションにおける薬剤に関する注意事項などについて理解する。

学修到達目標

1. 薬物の種類、特徴、作用機序を説明できる。
2. 薬物に対する生体の反応を説明できる。
3. 病態とその薬物治療を説明できる。
4. 薬物の相互作用や薬物動態を説明できる。
5. 服薬の基本、コンプライアンスを説明できる。

授 業 計 画

第1回	薬の作用様式と作用機序	小原 真美
第2回	薬物動態	小原 真美
第3回	自立神経	小原 真美
第4回	呼吸器作用薬（COPD、誤嚥性肺炎など）、感染症	ハサン アリフ ウル
第5回	消化器作用薬	ハサン アリフ ウル
第6回	鎮痛・抗炎症薬と麻薬、抗アレルギー薬	小原 真美
第7回	代謝治療薬（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症治療薬）	ハサン アリフ ウル
第8回	利尿剤、泌尿器作用薬	小原 真美
第9回	循環器疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第10回	睡眠薬、抗不安薬、抗てんかん薬	小原 真美
第11回	脳血管疾患関連治療薬	ハサン アリフ ウル
第12回	パーキンソン病・アルツハイマー病治療薬	ハサン アリフ ウル
第13回	抗精神病薬、抗うつ薬、ADHD治療薬	小原 真美
第14回	抗悪性腫瘍薬	ハサン アリフ ウル
第15回	フレイル、サルコペニア、ポリファーマシーなど	ハサン アリフ ウル

評価方法

進級試験を100点満点として60点以上を合格とする。

教科書

「リハベーシック 薬理学・臨床薬理学」 内山靖・藤井浩美・立石雅子 医歯薬出版株式会社 2020年

参考図書・文献

「機能・活動・参加とQOLを高めるリハビリテーション薬剤」 若林秀隆 じほう 2019年
「薬がみえる Vol.1～4」 メディックメディア

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

復習として参考図書の使用を推奨。授業中に出題された問題については説明できるようにしておくこと。

科目名	多職種連携論Ⅰ						
担当講師	田中 弘美 高橋 正基						
実務経験の概要	田中 弘美 : 作業療法士 療育施設にて、発達領域における実務経験を有する。 高橋 正基 : 作業療法士 医療施設、介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	前期
授業形態	講義 グループ学習 演習 オムニバス						

授業概要

多職種連携論Ⅰでは、医療概論・リハビリテーション概論・社会福祉論などこれまで履修した内容を振り返り、今「多職種連携」が求められる背景を確認します。また、各職種の理解を深め相互に尊重しあう基本的態度について学びます。後半では歯科衛生士学生との交流を通し、作業療法に関わりの深い職種の理解を深めます。

学修到達目標

1. 多職種連携の必要性を説明できる
2. 多職種連携の役割と協業の在り方について理解できる

授 業 計 画

第1回	多職種連携が求められる背景 1	田中弘美
第2回	多職種連携が求められる背景 2	田中弘美
第3回	多職種連携が求められる事例 1	田中弘美
第4回	多職種連携が求められる事例 2	田中弘美
第5回	多職種連携が求められる事例まとめ	田中弘美
第6回	介護支援専門員・介護福祉士	田中弘美
第7回	看護師・理学療法士	田中弘美
第8回	言語聴覚士・栄養師・薬剤師	田中弘美
第9回	各専門職の身分法	田中弘美
第10回	多職種との協業の実際	田中弘美
第11回	歯科衛生士学生 授業内容交換実習準備	高橋正基
第12回	歯科衛生士学生 授業内容交換実習準備	高橋正基
第13回	歯科衛生士学生 授業内容交換実習準備	高橋正基
第14回	歯科衛生士学生 授業内容交換実習	高橋正基
第15回	歯科衛生士学生 授業内容交換実習	高橋正基

評価方法

田中担当範囲70%（筆記試験とレポート課題） 高橋担当範囲30%（レポート課題）

教科書

リハビリテーション管理学（医学書院）

参考図書・文献

コミュニケーション論・多職種連携論（医歯薬出版）

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

多職種連携あつてのリハビリテーションサービスです。他の職種を理解することで自身の作業療法士としての理解と役割について理解をさらに深めて下さい。地域実習での経験を結び付けて理解を深めて下さい。

科目名	多職種連携論 II						
担当講師	竹田 敦子						
実務経験の概要	作業療法士。医療施設・介護保険領域施設において実務経験を有する。						
履修年次	3	単位数	1	時間数	30	開講時期	後期
授業形態	講義						

授業概要

専門職種間の連携と協業についての基礎知識や理論を理解し、連携のために必要なマネジメントの基礎を生活行為向上マネジメントの枠組を利用して考察し学ぶ

学修到達目標

1. 多職種間の意義を説明できる
2. 他の職種の役割を説明できる
3. 保健・医療・福祉における多職種連携のあり方を具体的に説明できる
(様々な人との協働を通して保健・医療・福祉の諸問題に対処することを意識できる)
4. 地域包括ケアシステムを例に確認できる

授 業 計 画

- | | |
|------|-------------------------|
| 第1回 | 多職種連携の意義① |
| 第2回 | 多職種連携の意義② |
| 第3回 | 他の職種の役割 業務内容① |
| 第4回 | 他の職種の役割 業務内容② |
| 第5回 | 医療・保健・福祉における多職種の在り方① |
| 第6回 | 医療・保健・福祉における多職種の在り方② |
| 第7回 | 医療・保健・福祉における多職種の在り方③ |
| 第8回 | 多職種連携の実践（病院）① |
| 第9回 | 多職種連携の実践（病院）② |
| 第10回 | 多職種連携の実践（病院）③ |
| 第11回 | 多職種連携の実践（在宅）①マネジメントを通して |
| 第12回 | 多職種連携の実践（在宅）②マネジメントを通して |
| 第13回 | 多職種連携の実践（在宅）③マネジメントを通して |
| 第14回 | 多職種連携の実践（在宅）④マネジメントを通して |
| 第15回 | 多職種連携の実践（在宅）⑤マネジメントを通して |

評価方法

筆記試験（100％）

教科書

リハベーシック コミュニケーション論・多職種連携論

参考図書・文献

履修上の留意点及び講義時間外の学習(予習・復習)

地域作業療法実習の経験を有効に活かしながら多職種連携における認識を広げていきましょう。